

2018年10月4日

第52回中部本部長杯 ゴルフ大会の報告

企画委員会 委員長 石川君雄（経営工学、総合技術監理）

大会幹事 田島暎久（航空・宇宙）

企画委員会主催による第52回中部本部長杯ゴルフ大会が10月4日（木）、参加者18名によって「さくらカントリークラブ（岐阜県八百津町）」において開催されました。ときおり小雨のぱらつく空模様でしたが、参加者一同、心行くまでゴルフを満喫するとともに親睦を深めました。

本大会は25年以上の歴史を持ち、毎年春と秋に中部本部の行事として開催されています。最近是他士業との交流・親睦を兼ねて、弁理士会、弁護士会、更には新妻参議院議員事務所からも参加いただいております。今回は弁理士1名、弁護士3名、新妻参議院議員事務所1名が参加されました。

結果は次の通りでした。（敬称略、ダブルペリア方式）

優勝：沢野 勝（建設）、 準優勝：山口昇三（建設）、 3位：尾崎隆弘（弁理士）



スタート前の集合写真

次回の予定：第53回 2019年4月11日（木）

同場所「さくらカントリークラブ」（野尻氏の紹介）

次回の大会幹事：沢野 勝 sawano@aqua.ocn.ne.jp

以上

追記：訃報。この大会にいつも参加されていた 有泉湧二 氏が、この日の15時35分にすい臓癌のため逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

有泉氏は今大会にもエントリーされていましたが、体調不良とのことでキャンセルされました。

<第 45 回技術士全国大会(福島)の報告>

岡井 政彦 技術士(電気電子)



2018年度の第45回技術士全国大会(11月11日～13日)に参加しましたので、以下に概要を報告します。

中部本部からの参加者

中部本部からは、愛知県支部19人、静岡県支部5人、岐阜県支部2人、三重県支部1人でした。また参加者総数は技術士640名(参加者名簿による)であり、これに技術士でない一般の参加者(パネラーやパネリスト、大学の先生、県内行政機関など)も入れると700名を超える総数でした。

開催場所

福島県郡山市 郡山ビューホテルアネックス、ホテル ハマツ、ビッグアイ

テーマ 「未来技術の創生と展望～巨大災害を生き抜く～」

2011年の東日本大震災とそれに続く福島第1原子力発電所の事故により福島では多くの生命と財産が失われました。その後の懸命な復興活動により福島は日常を取り戻しつつありますが、いまだに故郷へ帰れない人たちが大勢います。

大会テーマに込められた思いは、あらたなふくしま(福島)の未来をどう作り上げていくのか、その目標への到達に私たち技術士がどう貢献していくのかを考え、議論し、技術21部門の多様な技術士の知恵と力を結集することを改めて確認する大会でした。

記念講演

「会津藩から学ぶ復旧・復興の心構え」

歴史作家 星 亮一 氏(郡山在住)

主な分科会、関連行事

・特別分科会「ふくしまの未来を考える～未来・創生～」

講演 上石美咲さん(福島大学理工学部4年) 演題「きずなのちから」

パネリスト: 福島大学中井学長他県内大学の教授、東電(株)福島復興本社、技術士会福島県支部など

・全国防災連絡会議

各地域本部の防災支援担当者が集まり意見交換。静岡県支部(山之上副支部長)から「家族で考える防災Q&A(静岡県支部作成)」を参加者に配布し、好評でありました。

・見学会「猪苗代湖の水力発電施設(水資源豊かなエネルギー施策の一端)」

猪苗代湖水源の水力発電は、東京電力、東北電力、電源開発の3社合計で総出力は35万キロワットに及ぶ。百万キロ原発1基にも満たない発電力ではあるが、明治から100年超と延々と受け継がれてきた貴重な国産エネルギーの水力発電設備であり、今も脈々と発電を続けている。

・分科会「東日本震災の教訓から南海トラフ地震への備え」

日大中村晋教授、他に石巻市、いわき市から出席など。特に東日本震災を色濃く残す震災遺跡(シンボル)を保存することについての必要性が語られていた点が印象強く残っています。



大会式典

<ビジネスフェア2018 販売促進相談会奮戦記>

活用促進委員会 平田賢太郎 技術士（化学部門）



販売促進相談会 日本技術士会 中部本部一 技術士を上手に使うため

1. 背景

恒例のビジネスフェア2018が10月4日、ポートメッセ名古屋の展示場で行われた。主催の一般社団法人 東海地区信用金庫協会より、一昨年、昨年に続き販売促進相談会（：こちらが命名した技術相談会）の開催要請があり、技術士広報・認知度向上・ビジネス獲得に大変有難い機会であり、予定していたが対応させていただくこととなった。しかも今回は展示場内の相談コーナーに他展示企業同様ブースニコマのスペースを主催者費用にて用意いただけることとなった。ブースは、中小機構、中小企業診断士協会等コンサルティング機関コーナーに配置された。

2. 対応

(1) 展示企業380社よりの販売促進相談会への事前相談（当日以前の予約）応募結果

これまでの実績では、15社程度存在したが、本年度は零であった。予稿集を診たが過去の展示参加実績企業は少なかった。当方の相談会応募実績企業のリピート企業は1社だけであった。

(2) ブース内貼付用ポスター10枚（AO版）準備

- ・ 企業経営者の皆さんに（各企業がどんな局面で、技術士起用のニーズがあり得るかのガイド）
- ・ 貴社の商品サービスを求めているお客様を見つけ出す（写真1）
- ・ よろず科学技術相談所（ものづくり人材育成）・ 科学技術鑑定グループ（トラブル事案）

(3) 当日対応（表1：対応メンバー）

ミニプレゼン、訪問対応、ブース訪問



写真1 ミニプレゼン中の麻田技術士

表1 販売促進相談会 対応メンバー

NO.	所属	技術部門
1	金子利明 金子技術士事務所	環境部門
2	原 浩之 原 技術士事務所	金属
3	麻田祐一 麻田技術士事務所	機械部門
4	松原 守 松原技術士事務所	機械部門
5	村橋 光臣 株式会社環境デザイン	総合技術監理、衛生工学、 上下水道部門
6	前田武光 前田技術士事務所	建設
7	日比幸人 Business Art Consults Co.,Ltd	経営、総監
8	犬丸 晋 犬丸技術士事務所	金属
9	春田要一 春田技術士事務所	金属、総監
10	森川英憲 森川労働安全・技術士事務所	建設、総監
11	平田賢太郎 平田技術士・労働安全 コンサルタント事務所	化学部門
12	松田あゆみ 日本技術士会中部本部事務局	

3. 結果

- ・ 相談件数 4件（来場者）8件（訪問企業）
- ・ 来場者・訪問企業への説明回数 来場者計8件、訪問企業計23件

4. 課題・反省

- ・ 広報誌に基づき事前に企業に接触・広報し、ブースへ来訪いただくことが肝要である。
- ・ 顧客動線に沿った展示が必要：入口→通路→出口
- ・ ブース内プレゼンは客寄せに極めて有効（何かやっている印象）：3回計画中、2回実施
- ・ ブースのタイトル：企業における技術面の課題解決をする名称へ工夫要。
- ・ 来場者に声をかけるツールが必要 ex.配布物（パンフレットを入れる袋、粗品など）

5. まとめ

これまでの2回と異なり、ターゲット顧客がなく、困難を極めた。予稿集から、380社より、技術相談に応じそうな企業へ事前の相談アプローチを広報・営業する必要がある。昼食時の展示者情報交換会で、相互に名刺交換し、ブースへ来訪いただいた企業も数社あったが、ともかく、一に広報、二に広報の姿勢で、対応し認知度向上に努めた一日であった。この機会は、技術相談を実践する生のトレーニングの機会であり、多くの技術士の参加が望まれる。

<PL 実践研究小委員会の紹介>

PL 実践研究小委員会委員長 前田 持 技術士（機械）



○活動目的

PL 法すなわち製造物責任法は、第 1 条～第 6 条までのきわめて短い法律であるが、PL に関する書籍、裁判事例などはきわめて多い。これらの書籍を理解し、PL で悩む企業の手助けを目的として活動しています。

○活動内容

一昨年 10 月(2017 年)、弁護士の藤田哲先生をお招きして、「裁判官を説得できる意見書とは」という演題で講演会を開催しました。ご講演の内容は具体的な意見書 A,B,C,D を例にとり、ご説明いただきました。要するに専門家の意見書は、専門用語が多く分かりにくいので、弁護士や裁判官が「解かった」と云ってもらえるかどうかがキーポイントとのことでした。



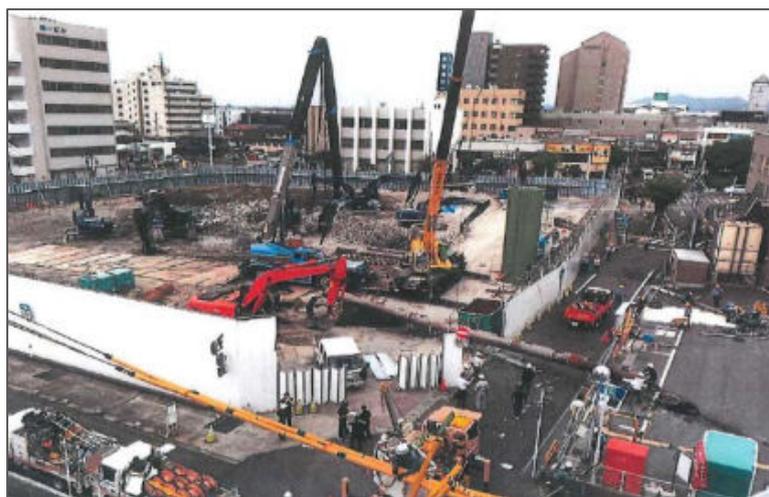
講演会風景



現在のテキスト「法工学」

現在は「法工学」（日本機械学会編）というテキストを使い、技術が法律を介して、どのようにして社会の中に定着していくかという技術と法律をつなぐ方法論を体系的に研究する学問領域である法工学を学んでいます。

また、事例研究としては新聞にも掲載されていた下記の写真のような事故事例、



具体的には 2017 年近江八幡駅の再開発事業においてクレーン車 1 台にて敷地角部分の杭引抜作業を行っていた。

ケーシングにより杭と周辺地盤との縁切り(杭を抜きやすくするため杭周辺を掘る作業)を行いケーシングの引抜を終え、杭の吊上げに取り掛かっていたが、ケーシングの接地が不十分で杭を無理に吊り上げたため想定以上の負荷がブームにかかり、ブームが破損しケーシングが転倒した。怪我人はなかったが道路を挟んだ薬局まで

でケーシングが倒壊し電線切断、電柱倒壊した。これにより、近隣の近江八幡駅などで停電が生じた。このような事故例について、原因鑑定の結果について話し合うなどの活動をしています。ご興味のある方はぜひご参加ください。

なお、毎回建設関係の事例があるわけではありません。産業分野は技術士の技術分野のごとく非常に範囲が広いので、電力関係、ソーラー、風車発電、廃棄物処理施設、食品機械など多岐にわたっていますので、あらかじめご承知おきください。以上

<企画委員会の紹介>

企画副委員長 竹居信幸 技術士（建設・総合技術監理）



○活動目的

本委員会は、2015年より旧事業委員会の業務を継承した活動を行っています。活動内容は、4月と10月のゴルフ交流会、7月の年次大会、2月の弁理士会との合同研究会、3月の新合格者説明会の企画等です。

○活動内容

例年2月に行っている「弁理士会東海支部との日本技術士会中部本部の合同研究会」をご紹介します。

本年は、2019年2月8日（金）に中部本部で開催し、技術士会側は、一般社団法人技術知財経営支援センター（MOT-IP）代表理事の秋葉恵一郎様にご講演いただきました。

講演内容は、技術士と弁理士との連携した活動状況、コンサルタント事例等でした。

弁理士会側の講演者は、未定です。

技術士会にとって、他の士業との連携は永年の課題であり、この研究会を通して、日本弁理士会と協力した業務開発の場の形成の構築の模索しています。

<経営工学部会の紹介>

部会幹事 長谷川欽一 技術士（経営工学）

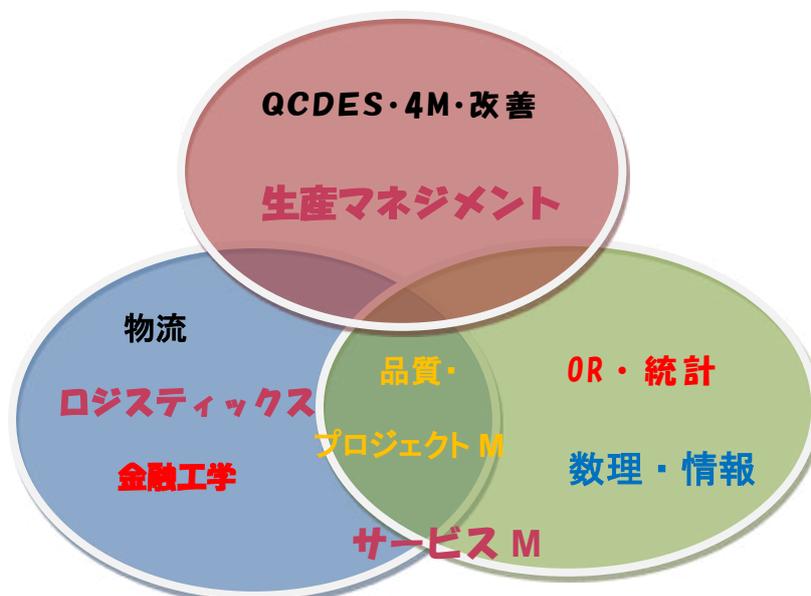


○活動目的

- I.各部門技術者との知見の進化及び深化を図るオープンな部会。
- II.中小企業診断士など他士業との連携。

○活動内容

- I.多様な講演内容。
- II.工場見学。
- III.統括本部との連携。
- IV.他経営支援団体への広報。



<社会貢献委員会(防災支援小委員会)の活動報告>

防災支援小委員会委員長 平澤征夫 技術士(建設)



○活動目的

中部本部における技術士による各方面での防災支援活動を活発化する。

○活動内容

- (1) 原則として具体的活動は、各県支部を中心に地域に応じた防災支援活動を推進する。
また、各県単位で防災研究会、防災教室、セミナー、専門家養成、自治体との支援協定締結を検討し、推進する。
- ・愛知：平成 29 年度から防災委員会を立ち上げ、第 1 回秋季防災講演会を主催した。
平成 30 年度は、建設部会と連携して、人口 3 万人以下の市町村に対しアンケートを行い、防災支援や、通常業務でも技術士が協力できそうな支援があるかどうかを聞き取ることにした。さらに、防災研究会、防災教室、セミナー、専門家養成、自治体との支援協定締結を検討するなどの活動を行っている。
 - ・岐阜：防災支援委員登録呼びかけ、防災教室の開催
 - ・三重：防災支縁委員呼びかけ、防災関連資料配布、自治体への防災テーマに関するテクノカフェの実施
 - ・静岡：静岡県地震防災センターとこども防災教室を開催、マンション防災マニュアルの作成研修、静岡市と防災ワークショップ開催、牧之原市との包括協定に基づく支援継続、静岡県との災害協定に係る協議の実施、静岡県土業連絡会関連活動、連絡体制整備
- (2) 中部建設部会と共催で、昨年度荷つづいて平成 30 年度防災に関する「秋季特別講演会」(土木分野の防災と維持管理に関する特別講演会)を開催した。
今年度の「防災分野」の講演者には杉井 俊夫 氏(中部大学都市建設工学科教授)を御願ひした。講演テーマは「安全な河川堤防とは?—土からなる遮水構造物の現状と課題—」であった。
講演内容は、はじめにわが国の河川堤防について、なぜ土で出来ているのか? その役割は何か? そして、今の堤防は本当に安全なのか? などの基本的な説明から土の透水性の話、透水を防ぐために、均質でない複雑な構造を持った堤防で可能なのか、などの相矛盾する堤防の安全性についての現状と課題を述べられた。つづいて先生が実際に、庄内川の河川敷で、作成したモデル堤防で行った透水実験と破堤実験の結果と科学的な解析結果をビデオを示して分かりやすく説明していただいた。



参考文献：杉井研究室URL

https://www3.chubu.ac.jp/faculty/sugii_toshio/papers_report/

<静岡県支部の活動>

支部長 長嶋滋孔 技術士（建設）



○活動目的

会員の自己研鑽のための CPD 例会の実施

会員の要望を例会時のアンケートにより調査し反映させる

興味を持ち参加し易い講演内容を心がける

支部独自の研究会の活性化に協力する

社会貢献活動として下記事業を意欲的に推進する

防災関連活動に伴う外部団体との契約、内容の履行

地震防災センター主催のこども防災教室への参加

小学校の理科支援特別授業

テクノロジーカフェの推進

本年は防災研究会を中心にまとめてくれた「家族で考える防災 Q&A」を 3,000 部発行し、会員の分担で自治会、学校などに配布し、日頃の防災意識を高め災害時の危機管理に活用すると共に技術士会を PR したい。

○活動内容（2018 年実施）

第 3 回例会 8 月 25 日 出席者：31 名

・「中国浙江省企業管理フォーラム参加報告」 講師 宮野正克、小久保優両会員

・「道路行政における最近の話題～静岡国道事務所の取り組み」事務所長 隅蔵雄一郎氏

第 4 回例会（見学会）10 月 26 日 出席者：22 名

・由比地すべり管理センター 国土防災技術株式会社 野坂大樹氏

・由比地すべり対策事業現場 国土交通省 富士砂防事務所 副所長 白木久也氏



第 5 回例会 12 月 8 日

・「生物多様性の保全～静岡県の野生生物保護の行方」常葉大学 名誉教授 山田辰美氏

・「天竜川の治水の歴史～明治 150 年・先人に学ぶ」浜松河川国道事務所 三浦弘禎氏

テクノロジーカフェ 9 月 14 日

・「新幹線物語」 講師：岡井政彦会員

会報の発行： 9 月 1 日 No.163 号

役員会 11 月 23 日：研究会と合同

12 月 8 日：例会と同時開催

静岡県災害対策士業連絡会

・静岡県との災害時支援の新合意書締結式：12 月 25 日

<岐阜県支部の見学会>

岐阜県支部 高木 智 技術士（建設、総合技術監理）



○開催目的

岐阜県支部では、岐阜大学のご協力を頂き、2017年8月にオープンしたインフラミュージアム (<http://me-unit.net/2017/10/26/infra-museum/>) の見学会を開催しました。

インフラミュージアムとは、社会資本の維持管理を携わる技術者が橋、トンネル、道路等の設計施工を学習するため、最新の点検技術の検証に役立てる施設です。平成30年8月末には高盛土の構造物の施設も完成し、充実した施設となっており、中部本部の会員の皆様にもご案内し、インフラの維持管理に関する講義とインフラミュージアム施設の見学会を企画いたしました。

○岐阜県支部主催の見学会開催

日時：平成30年10月27日（土） 14：00～15：30

場所：岐阜大学インフラミュージアム（岐阜大学構内）

後援：岐阜大学工学部、岐阜工業高等専門学校

参加者：13名

○岐阜大学対応者：

岐阜大学 工学部 社会基盤工学科 教授 小林 孝一 氏

岐阜大学 工学部附属インフラマネジメント技術研究センター 研究員 熊田 素子 氏

○行程

JR 岐阜駅前のバス乗り場に集合した後、岐阜バスを利用して学園祭で賑わう岐阜大学に到着。工学部の教室において小林教授から「岐阜大学インフラミュージアム」の概要説明を聞いた後、小林教授と熊田研究員の案内でインフラミュージアムを見学しました。

終了後、岐阜駅近くの居酒屋「浜やま屋」において有志9名で懇親会を開催しました。

○「岐阜大学インフラミュージアム」での内容

当該施設は、インフラマネジメント技術研究センター（CIAM）の実習施設として設立されました。この CIAM の目的は、「ひとつづくり」（人材育成）、「しくみづくり」（産官学連携）、「ことづくり」（新技術）を主眼にしているとのこと。

また、社会基盤 ME（メンテナンス・エキスパート）養成講座で、これまでに 444 名のインフラ維持管理人材を育成し、実践現場で大いに活躍されています。

「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」の一つが「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術（SIP インフラ）」で、「岐阜大学 SIP 実装プロジェクト」はロボット技術などの新技術活用で自治体を支援しています。

インフラミュージアムの施設として、「盛り土モデル」、「トンネル断面モデル」、「鋼桁モデル」、「PC 橋モデル」を設置されています。いずれも協力企業による新規製作です。

施設は ①学部と大学院の授業 ② ME 育成などの社会人プログラム ③鋼構造物の非破壊検査・点検技術の評価 ④その他の新提案 で活用しています。

※本報告は、岐阜県支部副部長 田島 暎久氏の見学会メモを参考に作成しました。

ご協力ありがとうございます。



PC 橋モデルの前で小林教授（左から5人目）と参加者

＜三重県支部の活動＞

支部長 竹居 信幸 技術士（建設・総合技術監理）



○活動目的

‘外部に開かれた会員の役に立つ技術士会活動の実践’を目標として、年4回のセミナー(例会)、年6回のカフェ、年2回の見学会、年3回の懇親会を実施しています。

○活動内容

支部活動の一例として、第1回見学会を紹介させていただきます。

日時：2018年9月11日（火）13時30分～15時30分

参加人数：12名（会員）+2名（一般技術者）

処理施設（浄化センター）

- ① 名称 志登茂川浄化センター
- ② 位置 津市
- ③ 敷地面積 6.2ha
- ④ 処理能力 46,700m³/日
- ⑤ 水処理方式 凝集剤添加型硝化脱窒法+急速ろ過法
- ⑥ 汚泥処理 濃縮+スクリーンプレス+焼却（将来計画）
- ⑦ 放流先水域 伊勢湾

＜施設見学＞

志登茂川浄化センター中央監視室、水処理施設



生物反応槽から最終沈殿池（右奥）

・水処理施設の特徴

- ①施設が海岸に近いことから、大地震による津波対策として、施設ごと防水扉による区分がされており、また施設の接続も想定浸水高さ以上の通路となっていた。
- ② 周辺の民家が近接しているため、施設のほとんどが建物の中にあり、最初沈殿池、生物反応槽などは覆蓋され、臭気に対する配慮が十分なされていた。（汚水ポンプ施設を含め、ほとんど臭気を感じなかった。）
- ③ 計画処理水量に対し敷地面積が狭いので、生物反応槽の水深を大きくとり、またMLSS（生物反応槽の微生物濃度）を高くできるステップ流入式を採用していた。このことにより、所定の汚水処理能力を確保していた。
- ④ポリエステル繊維を円柱状に加工したろ材を充填したろ過装置が設けられていた。このろ材を用いることにより、ろ材層の空隙率が大きくできるのでろ過速度が大きく取れ、その結果、設備をコンパクトにすることができた。また、ろ材の入れ替えも必要なく、摩耗や逆洗による減少分を追加するのみで、対応できるとのことであった。
- ⑤2018年4月に供用開始した施設なので、流入汚水量は少なく、最初沈殿池を越流させずに貯留池として使用し、その全量を生物反応槽に流入させ、生物反応槽も6池中2池のみを使用するような初期対応がなされていた。



管理棟前にて

＜青年技術士交流委員会＞

青年技術士交流委員会 副委員長 嘉田善仁 技術士（機械）



○活動目的

今年度は、「やりたい夢と語り合い、自己実現」を活動スローガンとし、活動目標を以下の3つとして活動しています。

- ・会員満足へつなげる企画
- ・年々進化できるコンテンツ
- ・壁のない新たな出会いの提供

今回は、実施した活動内容についてご紹介したいと思います。

○活動内容

【総会、6月例会】6月30日

＜総会＞

前年度の活動報告、会計報告及び、本年度の委員改選、規約改正、活動計画、予算計画の説明を参加者にしました。

＜活動報告の詳細＞

科学館等への見学会、技術士についての勉強会等を例会で実施し、各技術同好会の活動内容の紹介、技術士全国大会や修習技術者研究業績発表会等の他地域交流実績について説明しました。

＜活動計画の詳細＞

前年度に引き続き、他地域との交流を促進しています。詳細は、以下に報告致します。

＜委員の改選＞

本年度は、新たに2名の方が委員会メンバーとして運営に加わっていただいています。



写真：総会の様子

＜6月例会＞

＜技術同好会の説明＞

従来の大勢で行うフィールドワーク型の同好会に加え、1年完結型のプロジェクト型同好会を発足しました。少人数で2、3時間と気軽に集まれ、テーマもメンバーが合意し、技術的ならばOKとしました。

今年度は「情報活用」、「お城の科学」同好会が活動予定です。



写真：技術同好会の紹介

<自己+技術紹介>

会員同士の交流と技術知見を身に付ける目的で実施しました。新しい会員とのコミュニケーションだけでなく、中部青年技術士交流委員会会員の部門は、情報工学、機械、建設、経営工学、電気電子等、多岐に亘るため、専門外の新しい知見を多く得ることができました。

総会、6月例会共に20名の方に参加していただきました。



写真：自己+技術紹介

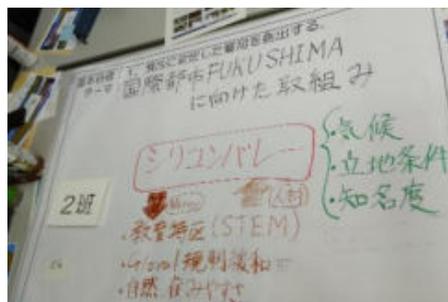
【青年技術士交流委員会全国大会】 11月10日～11月12日

《研修会》 11月11日

「共に考える『ふくしま 地域創生のための7つの挑戦』」をテーマに各地の青年技術士交流委員会の会員が8班に分かれて討議をし、今福島県が取り組んでいる挑戦に対して技術士として技術的かつ先進的な視点を交えて具体策を導出し、その具体策をプレゼンで競い合いました。



写真：開会あいさつ



写真：討議内容



写真：プレゼン風景

《テクノツーリズム》 11月12日

東北本部青年テクニカルツアーでは、大久保利通最後の夢と開拓者をめぐるツアーと題して、安積疏水を構成する十六橋水門、上戸頭首工、麓山の被曝を見学しました。当日は、郡山市役所の職員の方の説明で、大久保利通により職を失った武士に、当時国費を費やす効果がありそうな猪苗代湖の開拓に当たらせ、経済の発展を図ったなど、戦略的な建設計画等の歴史を学びました。



十六橋水門



猪苗代湖



麓山の被曝

《11月例会》 11月24日

＜講演会＞14名参加

「IoT、AIの現状技術、これから語る会」として、青年委員を中心に4名の講師が、それぞれの業務の分野に沿った内容を報告し、会場からの質疑応答を受けながら議論をしました。

IoT、AIはどの業界でも注目されている技術であり、皆さんの関心の強さを感じることが出来ました。しかしながら、運用という面ではどうしていいのか戸惑いも感じられ、課題を共有しながらも、経験の中での技術の話や政府が提示する未来構想などを題材に、活発な議論が出来たと思います。

＜懇親会＞9名参加

懇親会は講演会の会場にケータリングや有志によるお酒の持ち込み、買い出しにて食材を用意し、講演会の雰囲気のまま乾杯しました。改めて自己紹介から始まり、各参加者の業務の中でのIoTやAIの必要性なども合わせて話すことができ、より議論と親交を深めることができたと思います。



写真：講演会と懇親会

《忘年会》 12月8日

＜レクリエーション＞12名参加

メンバー間の親睦を深めると共に2年後に控えた全国大会でガイドをする候補調査も兼ねて、3チームに分かれて建築物ガイドをするため（忘年会内でガイドを行って優勝チームを決定しました！！）、調査を実施しました。こんなところに合掌造り／こんなところに五重塔・仏像／こんなところにお寺と各グループ共新しい発見があり、活動時間約4時間が全く間に過ぎ去りました。

＜忘年会＞16名参加

モンゴル料理店の個室を貸し切り、実施。普段（恐らく）食べないモンゴル料理や飲み物を堪能しました。更に民族衣装にも着替えることが出来、身も心もモンゴル一色。ガイド大会や紙飛行機大会と飲食だけではない催して、来年からの活動の団結を確認することが出来ました。



写真：レクリエーション

写真：忘年会

《おわりに》

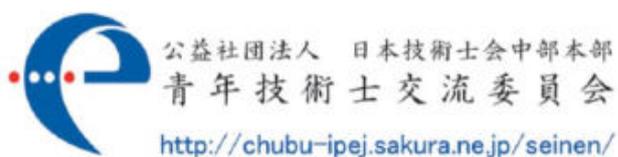
2019年も会員の要望に応えながら様々な活動をしていきたいと思えます。活動内容は、気軽に参加できるように工夫していきますので、私たち一緒に技術を楽しみましょう！

《入会方法》

入会方法；ホームページにて入会申込書をダウンロードし、メーリング担当へ送付。

メール宛先：nyuukai_c-seinen@c-seinen.web5.jp

《会の紹介 HP》



《会の紹介 FB》



公益社団法人 日本技術士会中部本部
青年技術士交流委員会



<https://www.facebook.com/>

日本技術士会中部本部-青年技術士交流委員会-613289168796624/

＜事務局散歩道＞

平田賢太郎、松田あゆみ

日本技術士会は、会員の皆様の日々の活動により、支えられています。中部本部には、活動組織としまして 16 委員会、7 部会、そして 1 登録グループがあります。会員は必然的にどこかの部会には否応なく所属しています。従いまして、よく「方針に納得できないから、〇〇部会を脱会します」との伝達がありますが、全くナンセンスなのです。部会長のご苦労が偲ばれます。又、委員会は、何らかの依頼推薦（委員会、部会、県支部）により任命されて委員が構成されていますが、結局は末端の会員への何らかのサービスを提供すべく運営されています。各委員さんは、夫々のバックグラウンドの代表であり、意見具申や出身母体へのフィードバックが必要であり、個人の世界でクローズすることがあってはなりません。そして、統括本部における常設及び実行委員会へ中部本部代表委員としてご苦労されている委員も多数おられますが、委員としての理念は全く同一です。統括本部では、21 各部会及び常設・実行委員会がまさに車の両輪となって、激しく運営されています。これらの運営手法を地域本部に生かすことは大事なことです。中部本部代表委員がここで切磋琢磨し、自己研磨すると同時に中部本部に新風を吹き込むことが望まれます。興味深い講演会や行事を、スカイプを通し、同時中継を中部本部で開催することが可能です。

これらの諸活動のインフラとして会議室及びプロジェクターそしてスカイプ機能は必要不可欠なものでして、‘中部本部会議室利用要領’に基づき利用していただいておりますが、会員皆様の日々の活動を円滑に行っていただくべく最近修正されました。第 1 点は、土日・祝祭日での利用に対する会議室のキー入手の問題です。これまでは、事前入手にあたり、事務局まで出向かれておられた会員も少なからずおられたと推察します。アパートの空室対策によく使用されるキーボックスを近傍に配置し、予め事務局に確認した暗証番号をセットすることで、入手可能としました。但し、暗証番号は時々変わります。第 2 点は、統括本部行事のスカイプ中継優先の件です。もし当会議室での行事が重なった場合、インパクトある行事におきまして、費用対効果の視点での協議の上、優先権が得られるようにしています。

技術士はそれぞれが一国一城の主であり、プライドを有しています。その意味で各活動単位は、その方針をメンバーに強制することなく、メンバーの意見が反映される緩やかな連携活動が期待されると思います。

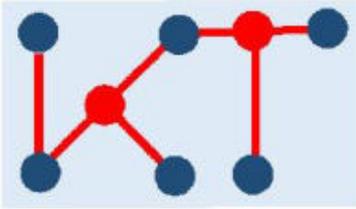


キーボックス



渡邊本部長、平田事務局長、松田事務局員

<協賛企業紹介>



共栄テクニカ株式会社

〒509-0125 岐阜県各務原市鷺沼南町6丁目 201 番地
TEL 058-384-6550 FAX 058-370-1998

<http://www.kyoeitec.co.jp/company.html>

私たちは技術に関するお手伝いをさせていただきます

得意分野は実験機・試験機・検査機に関する、開発・設計・製作・メンテナンスです
(技術者は、機械・電気・電子・ソフト分野の担当者が当たります)

玉野総合コンサルタント株式会社

～ 権威ある成果 品位ある行動 ～

私たち玉野総合コンサルタント株式会社の社訓である「権威ある成果 品位ある行動」は、そうした仕事への姿勢とともに、社員一人ひとりが社会人として気高さや上品さを持ち行動することを示しています。

日本技術士会 会員：162名

技術士登録者数

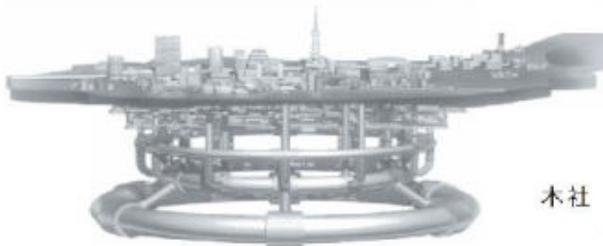
部 門	人数
総合技術管理	35
建設	151
上下水道	9
衛生工学	2
農業	3
森林	1
水産	1
情報工学	1
応用理学	8
環境	11
合 計	222



人・街・自然・いきいき

中日本建設コンサルタント株式会社

Nakanihon Engineering Consultants Co.,Ltd.



業務内容：道路・河川・鉄道等公共事業全般
上水道・下水道・工業用水道
廃棄物処理・廃水処理

代表取締役社長 上田 直和

本社 〒460-0003 名古屋市中区錦一丁目8番6号
TEL(052)232-6032 FAX(052)221-7827
URL <http://www.nakanihon.co.jp/>

New Amenity Creation

かたちを超える「もの」づくり

ソーシャルデザイン(環境・防災)
プロダクトデザイン
グラフィックデザイン
WEBデザイン
イベント企画・運営



株式会社 ナックプランニング
代表取締役 山田厚志(建設部門・総合技術監理部門)

〒454-0982 名古屋市中川区戸田三丁目1311番地 LIFAビル2F
TEL 052-309-7955 FAX 052-301-7982
E-mail nac-planning@nifty.com URL <http://nac.c.poco.jp/>



日本工営株式会社

～ 誠意をもってことにあたり

技術を軸に社会貢献する ～

私たち日本工営グループは、「安全・安心な社会基盤の整備と豊かな生活空間づくりに価値あるサービスを提供し未来を拓く」というビジョンに基づき、グローバルなコンサルティング&エンジニアリングファームへと進化を続けてまいります。

日本技術士会 会員：715名

技術士登録数

部 門	登録数
総合技術監理部門	286
建設部門	605
機械部門	2
電気・電子部門	20
資源工学部門	1
上下水道部門	54
衛生工学部門	6
農業部門	54
森林部門	14
経営工学部門	2
水産部門	2
情報工学部門	12
応用理学部門	82
環境部門	35
合計	1,175

yec 八千代エンジニアリング株式会社

代表取締役社長 出水重光
 執行役員 眞間修一
 名古屋支店長

名古屋支店 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-9 スカイオアシス栄
 電話：052-950-2150 FAX：052-950-2151

☆中部本部では、協賛いただける企業・団体を募集しております。協賛の申込みにあたっては、中部本部へご連絡いただくか、ホームページ「協賛団体募集要項」をご確認ください。

<http://chubu-ipej.sakura.ne.jp/>

【今後半期の主な予定】

- ・中部本部 6月 1日(土) 夏季例会 7月20日(土) 年次大会
9月 7日(土) 秋季例会
- ・愛知県支部 6月15日(土) 年次大会 8月 3日(土) 例会
9月21日(土) 例会
- ・岐阜県支部 5月11日(土) 年次大会 7月 6日(土) 例会
9月14日(土) 例会
- ・三重県支部 4月 6日(土) 例会 6月22日(土) 年次大会、例会
- ・静岡県支部 4月13日(土) 合格者説明会 4月27日(土) 例会
6月 8日(土) 年次大会、例会 8月24日(土) 例会
9月28日(土) 例会
- ・日本技術士会定時総会 6月13日(木)
- ・技術士第2次試験 7月14日(日)、7月15日(月)

編集後記

技術士会中部本部の広報誌第3号「技術士ちゅうぶ」が完成しました。編集委員も徐々に慣れてきましたが、技術士会各位も広報誌発行の周知度も上がり、原稿の募集、締切り、書式設定などスムーズになってきました。また、内容も部会、支部の講演会の紹介のみならず、会員投稿においては、ハイレベルな技術論文まで投稿して頂き、大変充実したものに仕上がっております。投稿して頂いた方々、誠にありがとうございます。

表紙は、創刊号の愛知県、第2号の三重県に引き続き、この第3号は静岡県です。静岡県と言えば、世界遺産の富士山は外せません。我が広報委員会の岡井委員長による撮影です。富士山と高速道路との構図には、静岡感と技術の融合という点において大変に見ごたえがある表紙の写真となっています。

次回、発行は9月です。新規合格者の紹介はもとより、大学の技術士会の紹介など、活動の輪を広げるような内容にしていきたいと思っておりますので、皆さま、投稿をよろしくお願ひします。最後に、お忙しい中、広報誌第3号を発刊に際しましてご執筆、ご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。（編集委員：高木 智 記）



技術士“ちゅうぶ”では、会員の皆様からの投稿記事を募集しております。
投稿をご希望の方は、広報委員までお気軽にご相談、ご連絡ください。

中部本部 広報委員会

委員長 ○岡井 政彦

副委員長 ○栗本 和明

委員 井上 正喜 小方 弘成 五味 道隆

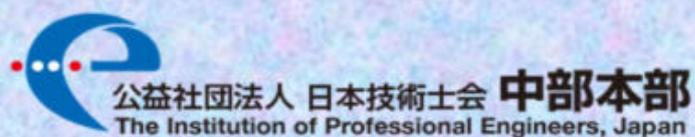
○高木 智 武田 晃 西方 伸広

村橋 光臣 横山 芳昌 吉村 元一



(○：第3号編集担当者)

技術士 “ちゅうぶ” 2019年3月 第3号



〒450-0002

名古屋市中区名駅五丁目4番14号花車ビル北館6階

TEL(052)571-7801 FAX(052)533-1305

URL <http://chubu-ipej.sakura.ne.jp/>

E-mail: g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

発行責任者 広報委員長 岡井政彦